

活動レポート

リージョナルステート研究会

文責：研究会幹事長 成田 登

平成 21 年度総会～講師は高校生

リージョナルステート研究会では毎年 2 月から 3 月の時期に総会を開催しています。今号では去る 2 月に行われた平成 21 年度総会についてご紹介いたします。

日時：2010 年(平成 22 年) 2 月 19 日(金)

16:00～18:30

場所：環境サポートセンター多目的ホール

1. 講演会

「農業高校における自然エネルギー活用の実践事例」

今回の講演会は、北海道岩見沢農業高等学校の生徒さんたちを講師にお招きしました。発端は昨年夏。当研究会の循環技術システム研究分科会の見学会で訪れたのがきっかけでした。生徒全員が参加する「農業クラブ」で、自然エネルギーを積極的に活用した研究を実践されている様子を実地に見せていただきました。その研究内容のみならず、生徒さんたちによる堂々とした成果発表を目の当たりにし、ぜひ研究会総会でも披露していただきたいということで今回の運びとなりました。



北海道岩見沢農業高等学校の先生によるご挨拶

生徒さんたちには、地中熱利用と利雪農業という 2 つのテーマについて発表していただきました。

(1) 地下 2 m の熱エネルギー

「農業生産における地熱利用の取り組み」

ハウスに取り入れる外気の処理に地中熱を利用する取り組みについて発表していただきました。地中に埋設した樹脂管内に外気を通すことにより、作物の生育環境を改善する試みを続けています。担当の先生とメーカー技術者の指導のもと、生徒たち自身で施設を作り、温度変化の測定、分析とともに作物の生産に取り組みました。



緊張の面持ちで前に出て行く高校生たち

(2) 利雪農業の進化

「岩農利雪研究 10 年の挑戦」

積雪の多い岩見沢の地で、この雪を農業生産に活用するべく取り組んできた 10 年間の歩みについて発表していただきました。労力とコストをかけない雪冷熱利用を目指し、さまざまな試みを繰り返して現在に至っています。先輩から後輩へ、脈々と受け継がれてきている挑戦が大変頼もしく感じられました。中学生向けの発表を聞いて興味を持ち、岩農進学を決めた生徒さんもいるとのこと。学内にとどまらず、市役所や地域農家の皆さんを巻き込んで進め

られている取り組みの進め方については、われわれも大いに学ぶべきであると思われた次第です。



測定データを解析して考察

2. 出前授業の取り組みと実験の実演

生徒さんたちによる発表の後には、当研究会のエース、自然科学教育分科会の座長である対馬氏の登場です。この分科会では自然科学に関する出前授業を続けてきています。今回の総会では、その授業風景を再現・実演する機会を設けました。先ほどまで講師であった高校生たちも、研究会メンバーとともに生徒役です。



対馬座長による実演

30分間という限られた時間の中でしたが、実験キット「エッキー」を使った液状化実験、切り紙細工などを楽しみトークとともに披露。本業よりも情熱を注ぎこんでいるのでは？と勘繰ってしまいそうな熱演でした。

3. 平成21年度の活動報告・平成22年度活動計画

出前授業の後には、通常の研究会総会となりました。

例年は総会プログラムが先ですが、今年は講師役の生徒さんたちが岩見沢まで帰宅する時間を考慮して入れ替えました。生徒さんたちは拍手の中退席しました。

研究会全体、また各分科会から、1年間の活動と今後の計画についての報告がありました。分科会活動が中心の当研究会ですが、全体活動も徐々に増やしつつあるところです。

自然科学教育分科会では、寿都町、清田区民シニアスクールなど、毎年お声のかかる所を含めて10件を超える出前授業を続けてきています。



自然科学教育分科会 板谷幹事

循環技術システム研究分科会では、21年度22年度と「雪氷熱エネルギー及び自然エネルギー」をテーマに据えて例会・見学会を続けています。



循環技術システム研究分科会 阪座長

地域主権分科会では、過去3年間の成果を踏まえた報告書の執筆・取りまとめ作業中です。その他総会の様子につきましては巻頭のグラビアを、活動については研究会HPをご覧ください。